

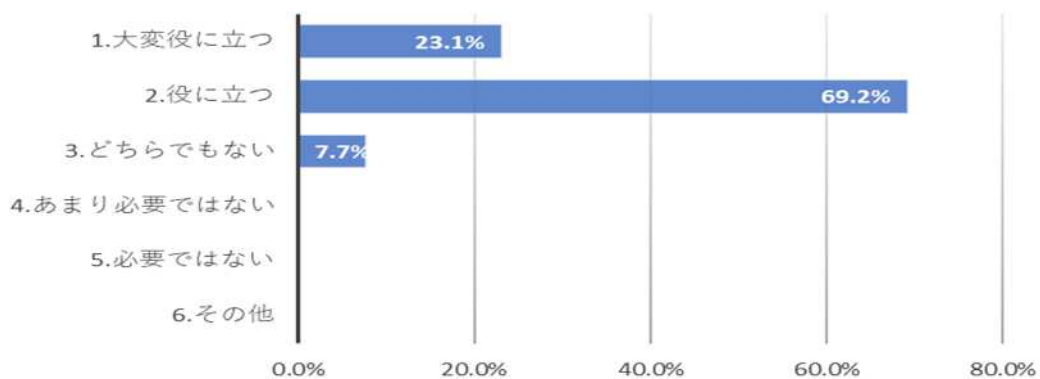
市内福祉施設に対するアンケート結果

1. 回答者情報

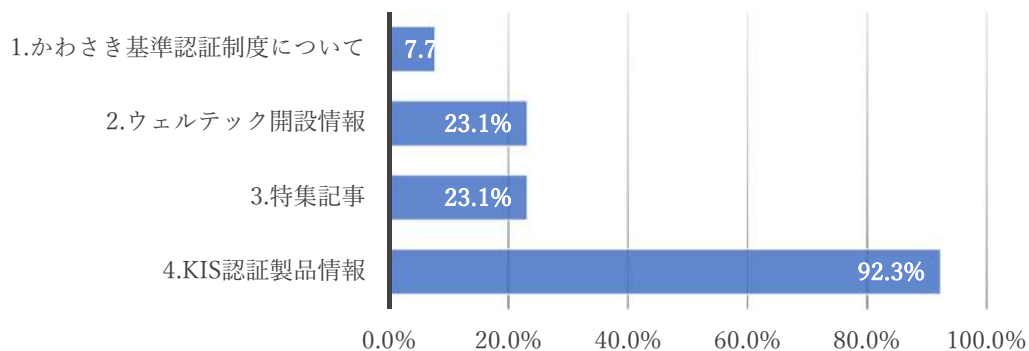
事業者種別	回答数	職種	人数
特別養護老人ホーム	4	ケアマネージャー	3
小規模多機能型施設	2	管理者・事務職員	3
有料老人ホーム	1	生活支援員・相談員	2
居宅介護支援施設	1	介護福祉士	1
通所介護	1	作業療法士	1
障害者支援施設	2	理学療法士	2
医療機関	2	精神保健福祉士	1
合計	13	合計	13

2. パンフレット掲載内容について

(1) 全体の満足度について教えてください。



(2) 参考になった掲載内容を教えてください。(複数回答可)



【理由】

- ・介護職員の負担軽減や業務効率化に関してはインターネットやセンサーを活用した機器が効果的だと思います。特集して欲しいです。
- ・実際の使用例があると商品のイメージが付きやすいです。
- ・企業のパンフレット等では、分かりにくい部分が多いので、導入時の介護現場での生の声はとても参考になると思った。
- ・各製品の効果などのエビデンス
- ・製品が動画で閲覧できる機会があるとよりイメージがしやすいかと思います。

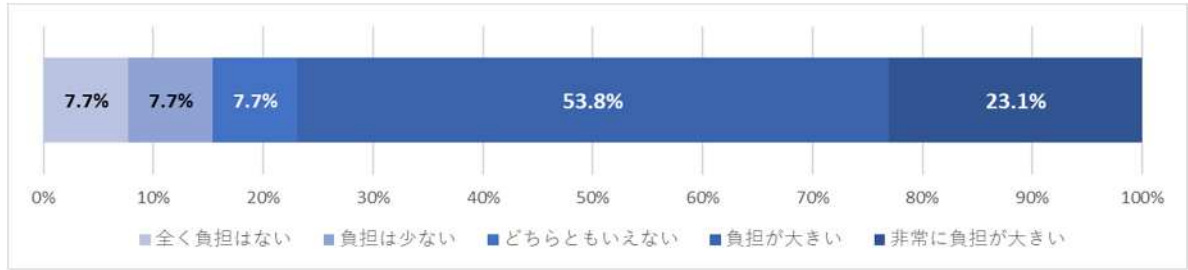
(3) パンフレットに掲載している製品で、導入したい（試してみたい）製品があれば教えてください。

種別	製品名
移乗・移動	マッスルスーツ
移乗・移動	マキシツイン低床型
移乗・移動	どんどんウォーク
移乗・移動	腰部サポートウェア 「ラクニエⅡ」
移乗・移動	座位保持ティルトリクライニングラクレスト-2000B
移乗・移動	ROHOクアドトロセクション
移乗・移動	ピーチスカートⅡ
コミュニケーション	ボンボイス
コミュニケーション	旅のことばカード
姿勢保持	個別昇降テーブルここあ
姿勢保持	らくらくテーブル
睡眠	マルチポジションベッド
睡眠	ラフィオポジショニングベッド
入浴	シャワー温浴システム
見守り	見守りシステム
見守り	見守り介護ロボットaams
見守り	無線ケアコールシステムココヘルパ
見守り	スリープモニター
見守り	ライブコネクト

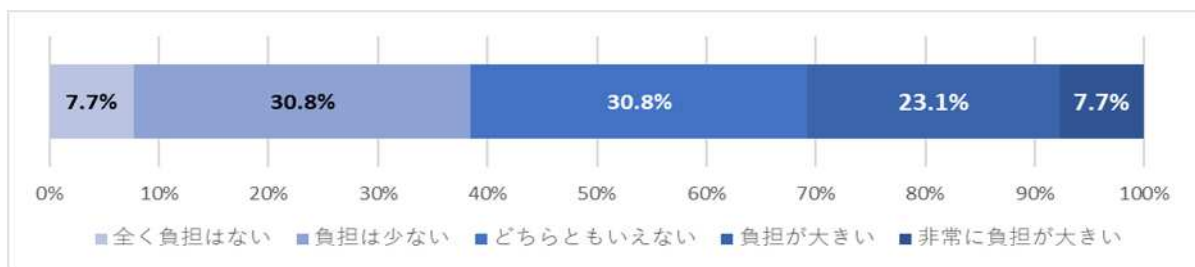
3. 貴事業所における介護業務について教えてください

(1) それぞれの介護業務における身体的負担感を教えてください。

①移乗支援



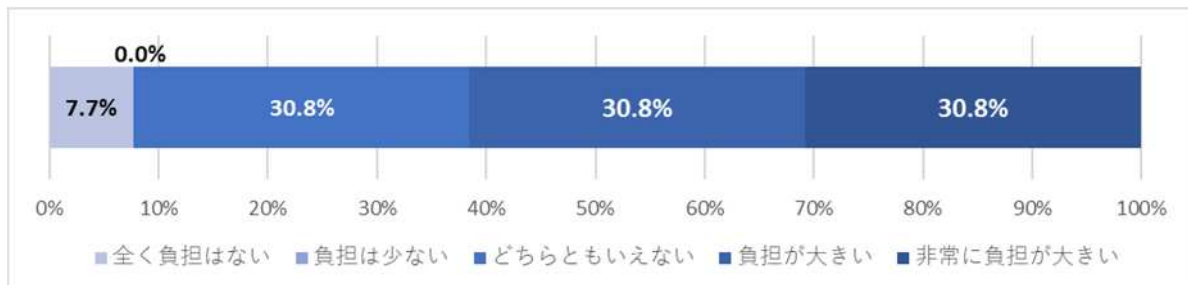
②移動支援



③排泄支援



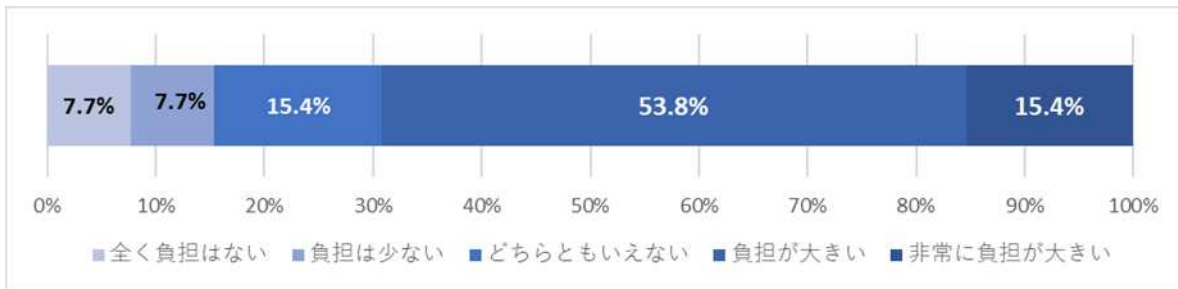
④見守り



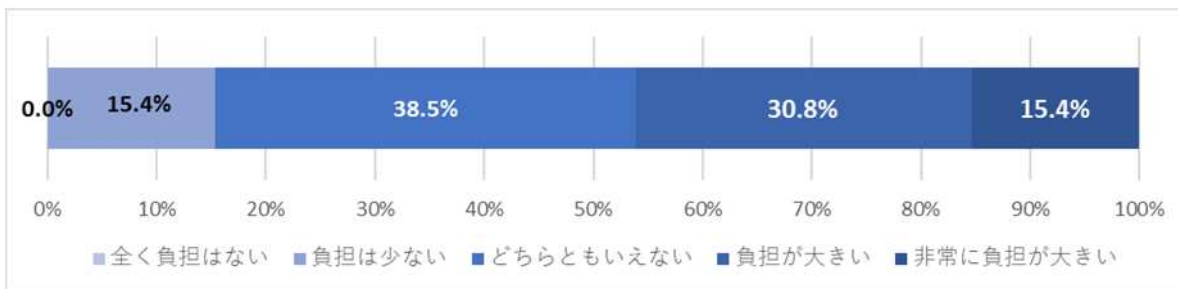
⑤ コミュニケーション



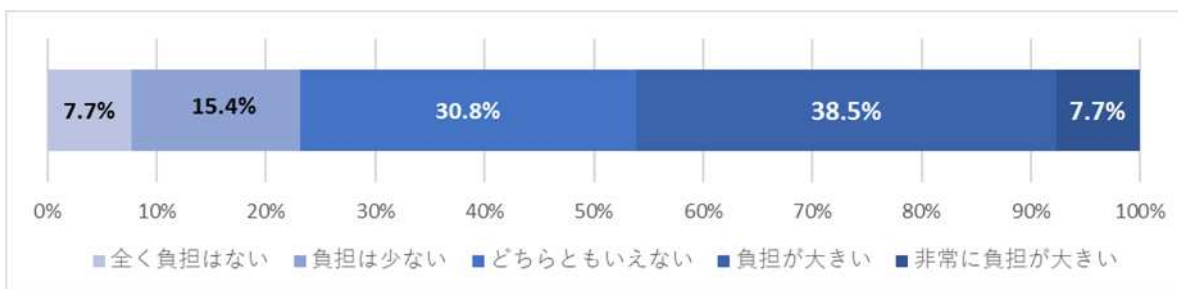
⑥ 入浴支援



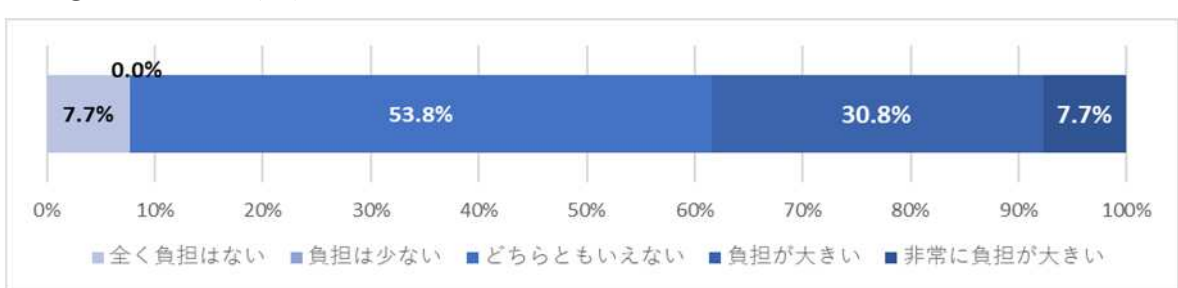
⑦ 介護記録



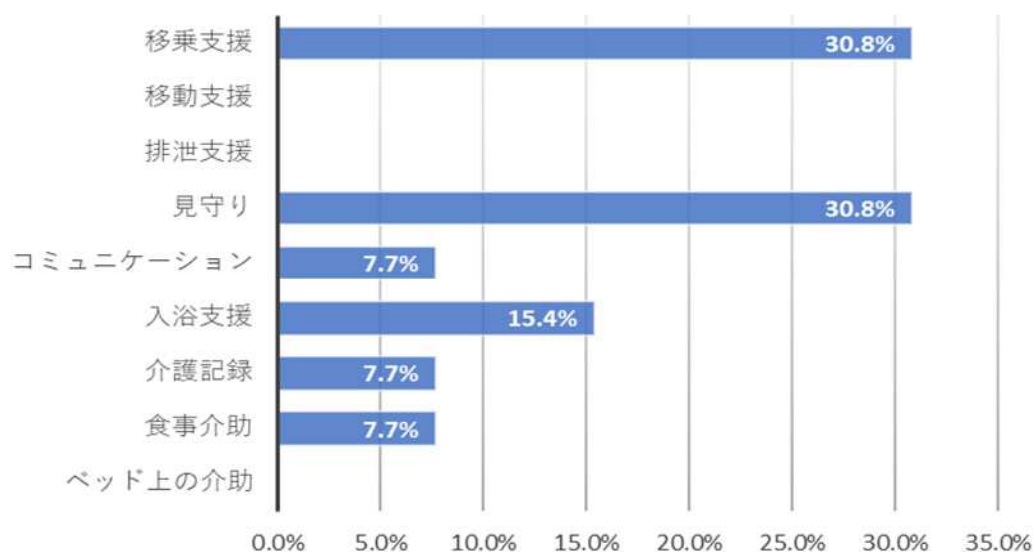
⑧ 食事介助



⑨ ベッド上での介助



(2) 介護業務のうち、最も身体的負担が大きい業務を教えてください。



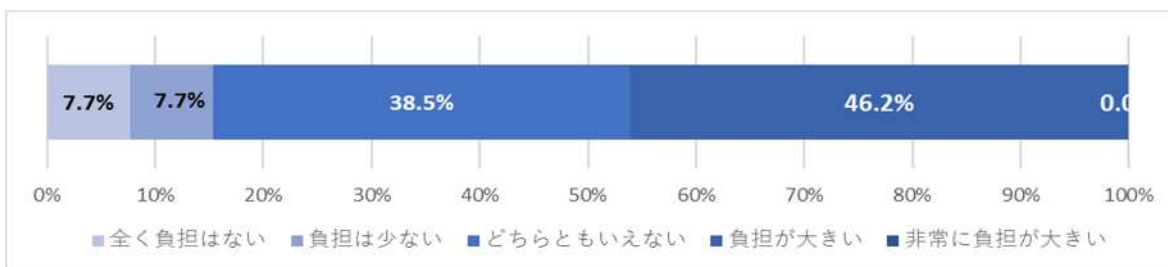
(3) (2) で選択した業務における困りごととその対応策について教えてください。

種別	具体的なお困りごと	対応策や工夫していること
移乗支援	介護度が上がってきていることで、普通車椅子への座位が保てず、リクライニングへの変更で職員2人で行う業務が増えている。腰痛への懸念	基本はノーリフティング介助を行い、双方にメリットとなるよう心がけている。スライディングボードを多用している
移乗支援	大柄の方の移乗介助を2人で行っていますが、小柄の女性同士では負担があります。特に、入浴用ストレッチャーから職員2人で抱えてベッドへの移乗は、負担が大きいです。	スライドボード等利用したこともありましたが効果なかったです。
移乗支援	移乗はベッドと車椅子間、車椅子とトイレ間、入浴場面等々、1日の内でも頻度が高い。移乗補助用具の使用により身体的な負担が軽減できる部分も多いが、セッティングに時間がかかると使用しない方を選択してしまうことも多い。排泄時の移乗のためにリフターを使用することを検討するが、下衣の上下をやりにくいいため、立てない方の排泄時の移乗方法は苦慮する。	複数の職種、職員でやり方を検討する。
移乗支援	車いすからベッドへ移乗してから排泄介助します。拘縮のある方をベッドに臥床していただくのが難しいです。	職員2人で、対応する。(できる時のみ)

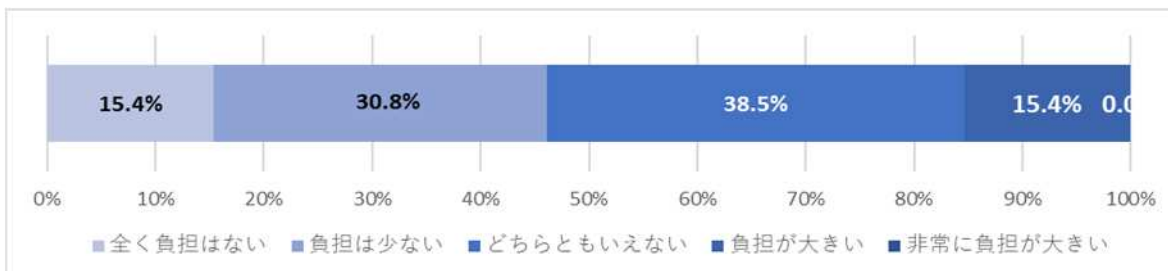
種別	具体的なお困りごと	対応策や工夫していること
見守り	認知症の方の転倒転落を防ぐのに身体・精神的負担が大きい。	車椅子から調整や座面の高さ調整、センサーを利用しているが全て防ぐことが困難。
見守り	認知症が重度の方、かつ、一人で歩行を行える程ではないがある程度身体機能が保たれている方は転倒のリスクが非常に高く、一瞬たりとも目が離せないです。特に職員が少なくなる時間帯は見守り以外の他の業務が行えるなくなることもあります。	認知症の勉強会、各利用者への対応方法の検討会を行っています。しかし、各職員間で勉強に対する意欲、知識力に大きな差があります。個人的にタブレット等で行える簡単な認知症の勉強アプリ等があったらその差を縮めやすくなるため助かります。
見守り	人数の少ない夜間帯の動き出しの把握、優先順位の取捨選択	見守りセンサーを使用し体動が起き出しかの確認を行う。居室位置の配慮や超低床ベッドの使用で転倒リスクの軽減を図る。
見守り	徘徊に対する見守り	
コミュニケーション	毎月の定期訪問時のモニタリングや担当者会議の負担は大きいです。	訪問前に確認事項等を予めまとめています。
入浴支援	夏場の入浴介助で職員が熱中症になる危険がある	時間を決めて水分補給をする
入浴支援	特養なので、全てのご利用者に入浴介助が必要であること（対象人数が多い）。浴槽への移乗動作・臀部を洗う際の立位介助など、抱える動作が多い。寝たきりで拘縮の強い方の場合、更衣介助の負担も大きい（ご家族は、元気だった頃の衣類を持参することが多く、襟ぐり・袖口が狭い、伸縮性の乏しい生地など、着せるのが大変）	入浴装置を買い替え、リフトの導入。衣類に関しては、ご家族への協力依頼をしている。
介護記録	書式が統一されておらず、内容が記録者により不十分なこともある。また、利用者が多く書式の統一がされていないこともあり、負担感が大きい。	記録ソフトを導入する予定だが…
食事介助	ご入居者さまによってタイミングや時間、摂取量など個人で違うことで援助時間の増加となっている	現状ではご本人様にあわせて介護を提供

(4) それぞれの介護業務における精神的負担感を教えてください。

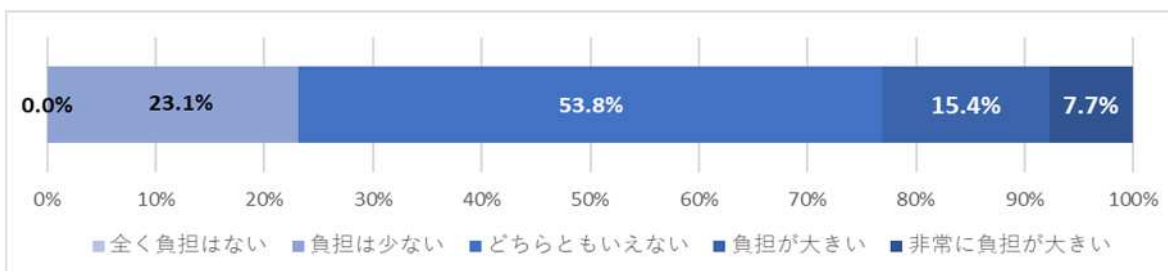
①移乗支援



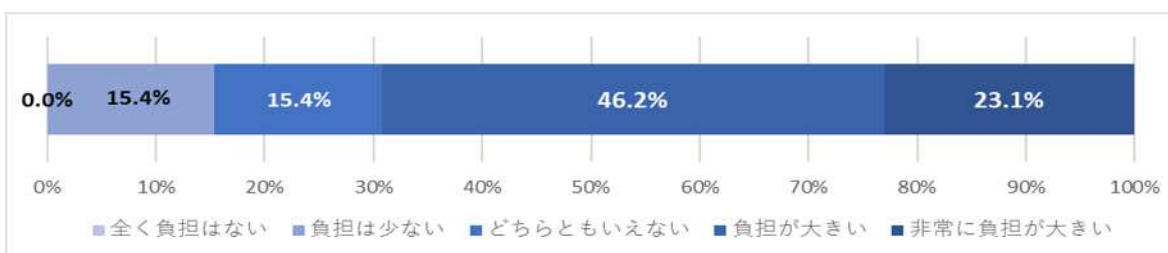
②移動支援



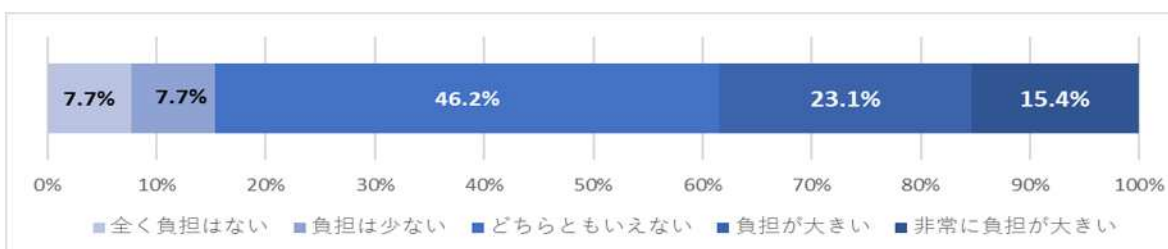
③排泄支援



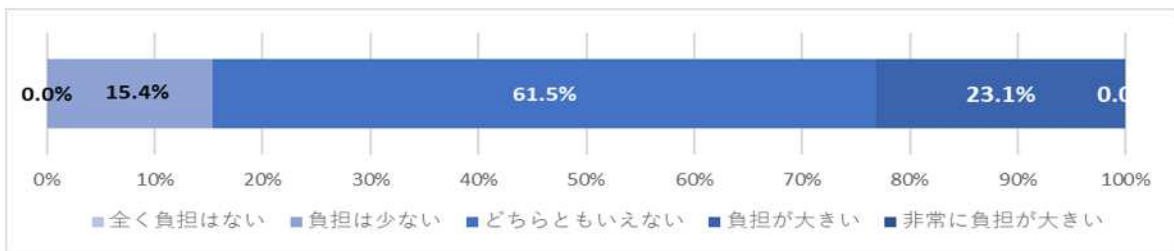
④見守り



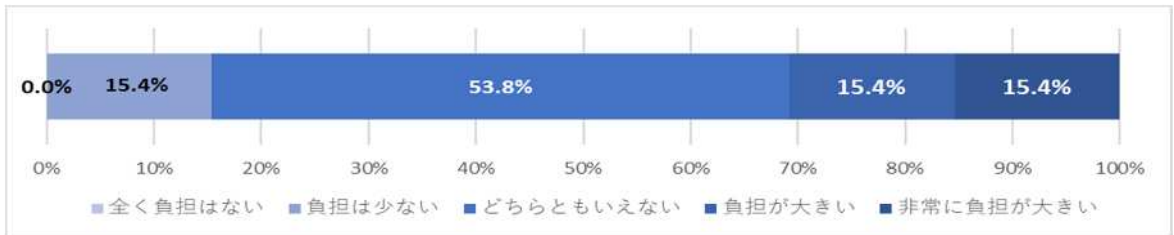
⑤コミュニケーション



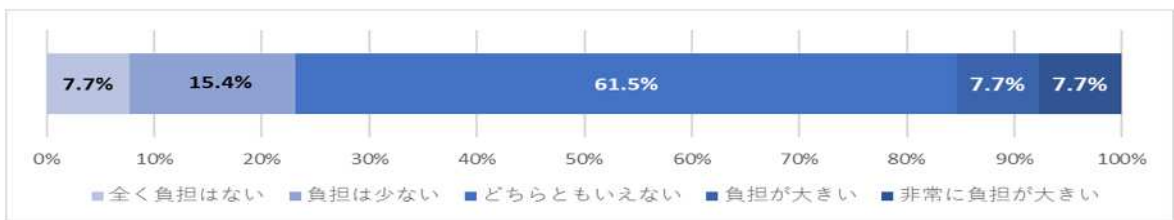
⑥入浴支援



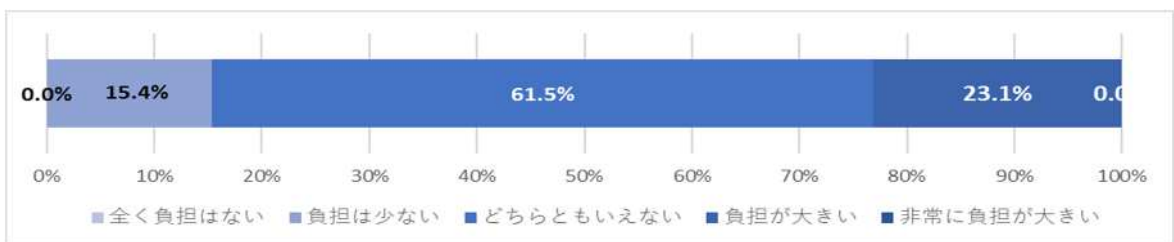
⑦介護記録



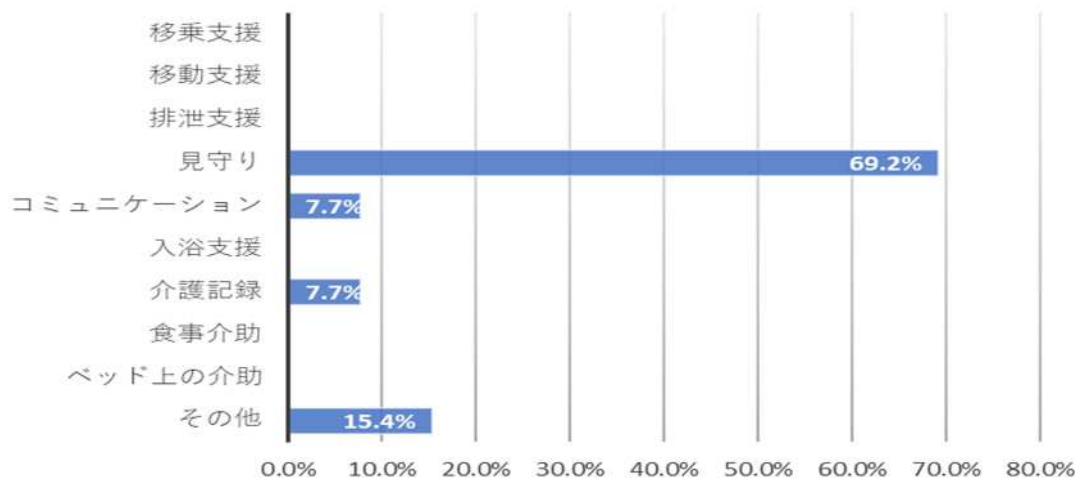
⑧食事介助



⑨ベッド上での介助



(5) 介護業務のうち、最も精神的負担が大きい業務を教えてください。



【その他】

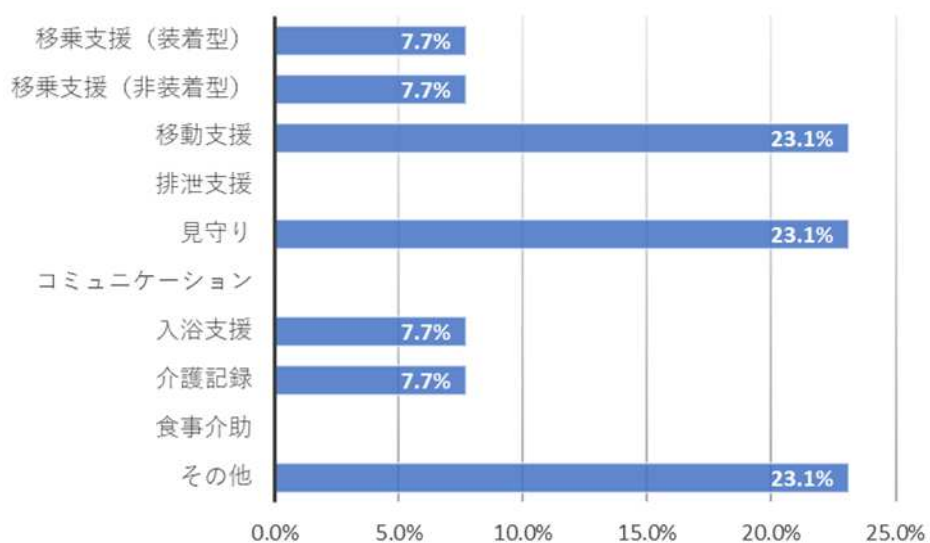
- ・BPSD（認知症の行動・心理症状）
- ・直接的な介助場面に入ることがないので精神的な負担感はわかりません。

(6) (5) で選択した業務における困りごととその対応策について教えてください。

種別	具体的なお困りごと	対応策や工夫していること
見守り	転倒の危険がある利用者に常に気を張っている必要がある	センサーやマットを活用したり巡回頻度を増やす
見守り	身体的負担の項目と同様に、重度の認知症、かつ、ある程度身体機能が保たれている方に対しては一瞬も目が離せません。他の業務も並行して行う必要があるため精神的な負担が非常に大きいです。	身体的負担の項目と同様に、認知症の勉強会や対応方法の検討会を行っています。
見守り	職員が減ってきていることでの事故は多い。特に見守りについては人員削減部分となりやすく軽視することで事故が起ってしまう事もある	見守りは必ず1人はつけるようにしているが目が足りない現状
見守り	職員1人で複数の方の見守りを行う際、利用者1人対応していると他への注意が散漫になり不安になる。	事故防止の観点から、リスクの高い方を優先して対応を行ったり、他職員を呼び対応している。

種別	具体的なお困りごと	対応策や工夫していること
見守り	転倒のリスクのある認知症のご利用者の場合常に見守りが必要であり、同様のご利用者が複数いると、職員も常に緊張している状態になる。また職員によってはスピーチロックが出やすくなり、職場の雰囲気が悪くなる。	他部署からの時間・期間限定での応援（人員配置）。チェアセンサーなどの見守り装置の活用。日中の活動及びケアの工夫。
見守り	夜間帯、職員人数が少ない中での動き出しへの対応等。	センサーにより動き出しなのか起き出しなのかを確認。居室位置や超低床ベッドを使用する事により転倒リスクを軽減する。
見守り	歩行が不安定な方の夜間起きだして、転倒につながるリスクを危惧します。	居室にセンサーを設置したり、掛ふとんに鈴を付けたりしている。
介護記録	支援中に記録しきれず、終らないと帰れない。	
その他	BPSDによる介護提供の難しさ 頻回なナースコール	認知症のBPSDについて問題解決などを行い軽減に努めている

(7) 貴施設に導入している介護支援機器で最も使用する頻度や満足度の高い介護機器を教えてください。



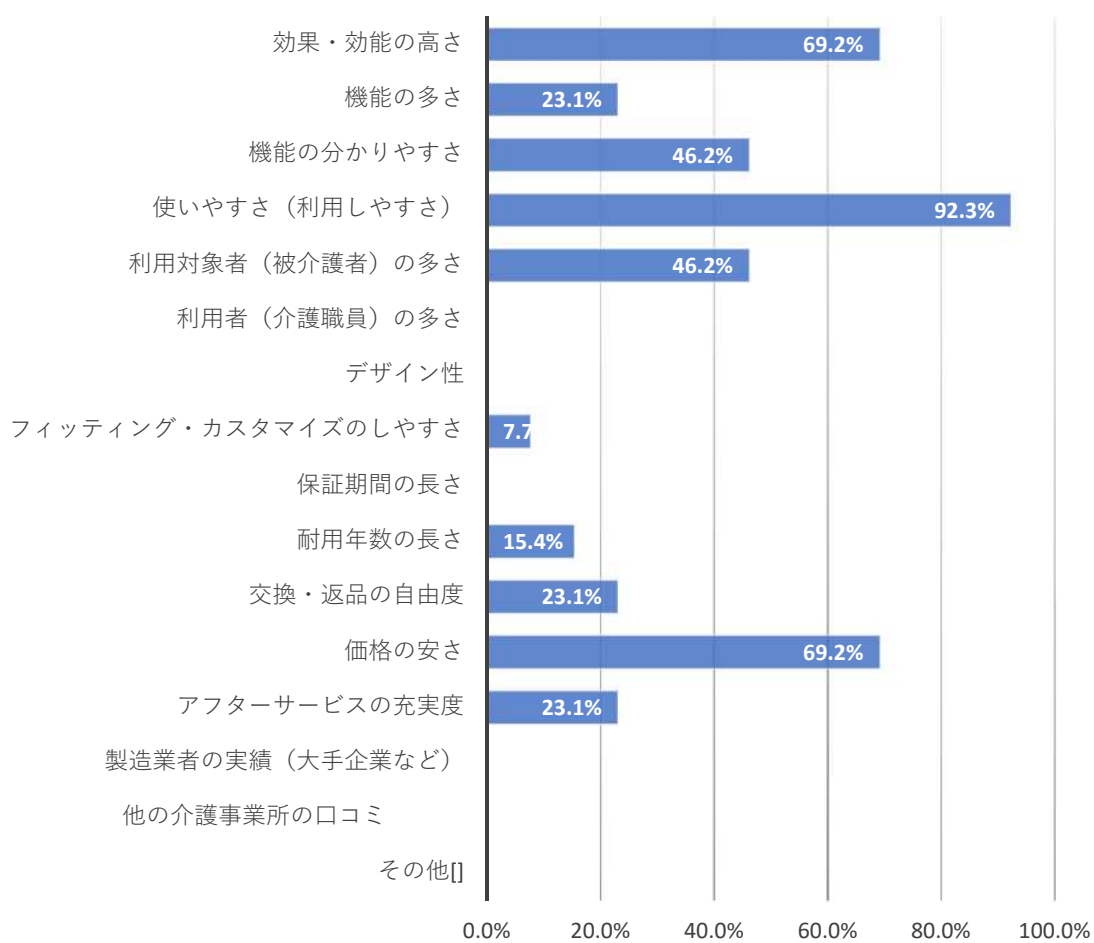
(8)(7)で回答した機器名と理由を教えてください。

種別	機器名	理由
移乗支援（非装着型）	スカイリフト	利用者職員双方に負担が少なく、トイレで排泄を行える期間を長く保つ事が出来ている。
移動支援	車椅子	歩行能力が低下し、移動が困難な方が多い為
移動支援	リショープラス	移乗介助がなくなった事が大きい。安静状態でも、移動せざるを得ない場合であっても対応可能
移動支援	車椅子	歩行が困難な方は、ベッド臥床時以外は車いすに移乗している。18人の入居者様中6人使用です。
見守り	眠りSCAN	夜間の巡回や排泄介助のタイミングを計ることができる
見守り	ガードアイセンサー	レンタルで簡便に使用できるため
見守り	見守り支援ベッドシステム	ベッドからの転落・転倒予防に役立つ
入浴支援	美浴	特殊浴槽の入浴介助を1名で行える点
介護記録	請求業務、記録業務を行うことの出来るソフトを使用している。	多職種で情報を共有できる。勤務時間の異なる職員同士で申し送り事項を共有しやすい。
DAM 体操	生活改善機器 DAM	職員が大きな声をださなくても、DAMで体操等見ながら行うことで、職員に余裕が出来、見守りながら行える。

(9) 貴施設に導入している機器で、改良が必要だと考える介護支援機器について教えてください。

種類	機器名	理由	改善点や要望
移乗支援 (装着型)	マッスルスーツ	使いにくい	重い
移乗支援 (非装着型)	移乗サポートロボット Hug	使用できる対象者が少ない	胸や脇にかかる負担を軽減して欲しい
移乗支援 (非装着型)	マイティエース II ベッドセット	デザインが悪い	使い勝手は良いが、工業製品っぽいデザインで居室に馴染まない。
移動支援	車いす リクライニング が簡易にできる	食事介助時、呑み込みが悪い方の首・顔の角度を変えたい	リクライニング車椅子では、危機が重厚で大きい。従来の車いすで、簡易に首・顔・肩が少し傾けることができたら良い。
見守り	立ち上がりを察知するセンサー	誤作動	認知症の方の不随意的動きに反応してしまい、正しい反応が拾えない。
見守り	見守りシステム	見守り業務の負担を軽減したいが、見守りシステムの導入はハードルが高い。	機器は 60 代、70 代の介護士でも扱えるようにしてほしい。値段が高い物が多く、費用対効果に疑問をもってしまう。
見守り	眠りスキャン	金額的に複数台導入することが出来ませんでした	機器の機能自体には特に不都合はない
見守り	超超低床フローア ーベッド (フラ ンスベッド)	幅が広く、廊下に出しにくい。(居室を移動することがあるので)	施設用ベッドと同じサイズのものを出して欲しい。
介護記録	自社製品	他システムとの連動が困難	システムの 1 元化

(10) 介護支援機器を選ぶ際に重視する点を教えてください。(複数選択可)



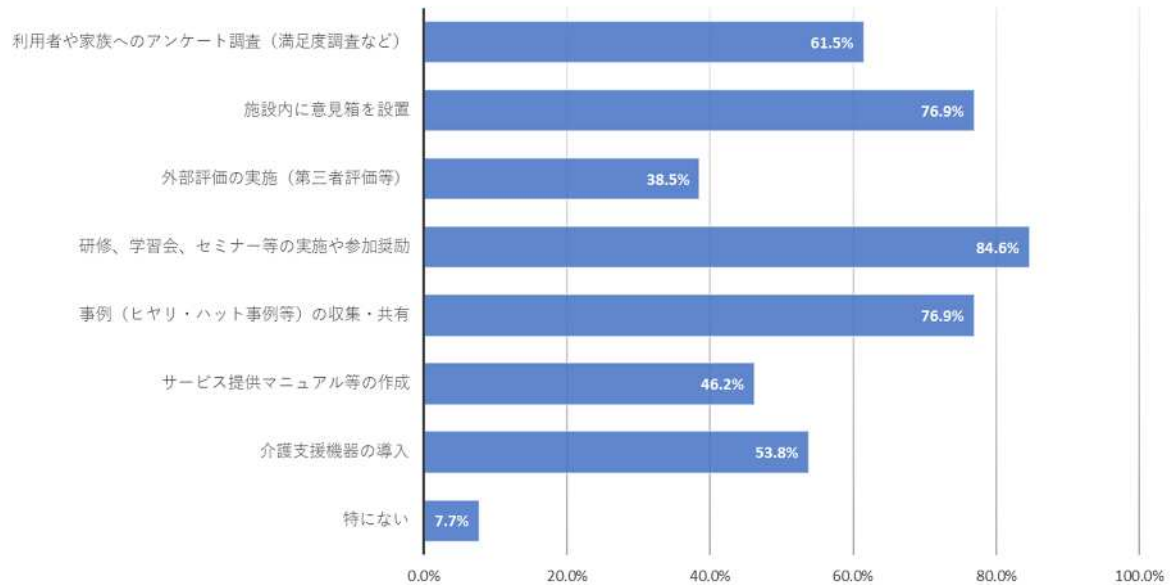
(11) 今後導入予定の介護支援機器と理由について教えてください。

機器名	理由
リクライニングができるコンパクトな車いす	食事時に、呑み込みが悪い人を少し傾かせたい。
眠り SCAN	導入済だが台数を増やす
リショナーの増大	使いやすさが秀でている

4. 貴事業所で行っている取組みについて教えてください

(1) 貴事業所で実施している介護サービス向上のための取組を教えてください。

(複数選択可)



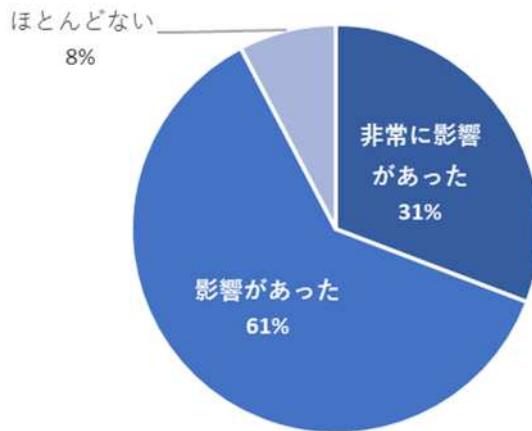
(2) 具体的な取り組みの内容とその結果について教えてください。

①介護支援機器の導入による取り組みの内容とその結果

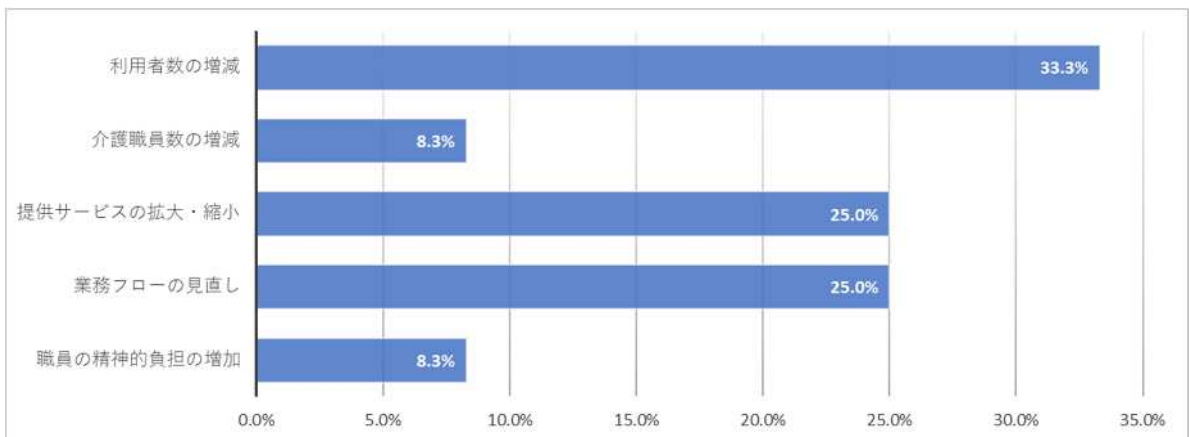
取組の内容	結果
職員に限らず、家族を含めた全ての入館者に対して、意見交換・オープンな姿勢からお互いに情報交換、時代で変わる介護状況の変化に対応するべく皆で作る施設、サービスの質の向上に繋げている。	施設に対する信頼は携わる関係者には良好。
新しい機器の実証実験	現場で使用しやすくするための提案など
積極的に福祉機器を導入している	腰痛等の労災が減った。体重の重いご利用者であっても、入居の際に問題にならなくなった。
入職後に福祉機器の使用研修を行う。実技+動画マニュアル。	福祉機器の使用に当たっては実際に自分が体験する事により安心して支援にあたる事が出来た。
介護機器の導入 年に複数回の介護技術に関わる研修（事例検討）の実施	介護機器導入により職員の身体的な負担軽減を図ることが出来た

5. コロナ禍における働き方の変化についてお聞かせください

(1) 新型コロナウイルスに関わる施設への影響について教えてください。



(2) どのような影響がありましたか。



(3) (2) で回答した内容について具体的に教えてください。

影響の内容	具体的な内容
利用者数の増減	コロナでの利用控えから利用者数の回復に時間を要した
利用者数の増減	自粛休みによる収入減
介護職員数の増減	出勤基準が厳しくなり、1日あたりの職員数が少なくなった。
提供サービスの拡大・縮小	細かく捉えるのであれば、全てにあてはまる。感染する恐れのある動きについての（職員の自宅での行動制限、飛沫・空気感染を懸念しての発語・大声・歌のイベントや催しの中止、面会中止、外部サービス入館の制限、発熱・疑惑の出勤停止）制限が非常にあったので、それに伴う利用者へのサービス縮小の影響が大きかった。

影響の内容	具体的な内容
提供サービスの拡大・縮小	入所の施設のため、長期入所者で感染者や濃厚接触者、症状のある方などがした場合に速やかに隔離対応するため、本来はショートステイサービスで使用する部屋を隔離用に確保している。そのためショートステイの利用率が低下している。消毒やガウン、マスク、フェイスガードなど、感染対策のための用品購入にかかる費用が増大している。
業務フローの見直し	新型コロナの予防、防止のためのマスク着用、換気、検温の徹底、アクリル板の設置等業務が増えたこと。夏場、マスク着用した上での入浴業務の息苦しさは命の危機を感じる。
業務フローの見直し	家族と会えないためご本人の精神面的不安
業務フローの見直し	消毒等の追加業務。 家族面会やボランティアによるレクリエーションに代わるものの準備等。
職員の精神的負担の増加	職員が日々緊張して過ごし、疲れている。

(4) 新型コロナウイルス対策として、導入した福祉機器があれば教えてください。
特になし

(5) 新型コロナウイルス対策として、今後導入したい福祉機器やあったらよいと思う福祉機器があれば教えてください。

業務種別	福祉機器名	理由
排泄機器	ポータブルトイレ	コロナ感染者が出たら、居室で、排泄してもらうため。
見守り機器	見守りのための製品	感染のため隔離されている方の部屋の安全を離れた場所から確認することが出来る(職員の感染のリスクを減らす)。
見守り機器	センサー	コロナに感染者が出たら、お部屋で隔離になりますが、出てくるのを防ぎたい。
コミュニケーション機器	家族とのコミュニケーションがとれる機器	面会禁止等、家族とのコミュニケーションの機会が減ったため
コミュニケーション機器	ガラス越しでも音声聞き取りしやすくなるスピーカーなど	面会方法も制限があり、直接やりとり出来ないことのストレスを少しでも軽減するため。

(6) 機器導入以外に、新型コロナウイルス対策として業務の中で工夫していることを教えてください。

対策	具体的な内容
感染対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消毒数の回数を増やす。密を避ける。 ・ 玄関口での検温と消毒。新型コロナを施設内に持ち込まないように施設来所時に行う。 ・ 施設玄関にカメラ型の体温計を設置し、入館者の記録をしている
面会の制限	ご家族の面会を制限し、完全予約制にしている
リモート面会やリモートでのレクリエーション等。	Skype を使用した面会(海外含む遠方の方や看取りの時にも活用できた)。傾聴ボランティアや歌の会などもリモートで行う事により対象者は少し狭まるものの機会の提供につながった。
作業・活動場所の工夫	フロアのレイアウトを変更することで、無理の無い交流、移動の動線を確保できた。
体調不良者の早期発見	職員玄関に非接触体温計を置き、毎日計測してから更衣室に行く。熱がある職員は、その場で連絡・帰宅する。
食事シーンの変化	職員と利用者様と団らんしての食事→利用者様のみの食事になっている
利用者の口腔ケア体操の軽減	パタカラ体操止めて、早口言葉を行う。
毎月コロナウイルス感染症対策委員会の実施	<p>利用者対応：通院・受診に向かった際の帰園後の個室対応・イベント行事のフロア完結型への縮小・期間限定の面会調整・往診の対面ルール、来客・訪問の対応ルール。</p> <p>職員：出勤・勤務時の発熱状況により勤怠の調整、定期 PCR 検査</p>